

日本災害看護学会 令和6年能登半島地震活動報告

2024年2月7日(水)

活動隊員：渡辺康人、藤原真由、加藤鮎美

1. 活動日時

2024年2月7日(水)0時～24時

2. 活動場所

珠洲市立大谷小中学校(石川県珠洲市大谷町1字78番地)

避難所使用者数 33人(一時避難者あり) 20世帯

3. 石川県の被害状況(2月5日14:00時点内閣府情報)

人的被害 死者:240人 負傷者:1,422人

住家被害 全壊・半壊・一部損壊:10,990棟

4. 天候(NHKニュース)

雨雪のち曇り 最高気温5℃ 最低気温-1℃

5. 活動の実際

2:00 巡視

4:00 巡視

5:00 救護班エリアにて過去の引継ぎ内容の確認、入口付近の不足物品確認

7:00 起床 ホットタオル配布 検温 健康状態の聞き取り

7:30 朝食(配膳・下膳)

8:00 珠洲市保健医療福祉調整本部 zoom meeting

9:00 ラジオ体操 換気

環境整備(床掃除:モップ、掃除機、キッズスペースの拭き掃除)

10:00 Peace Winds Japan 巡回診療、JDATのポスター掲示

11:30 住民対応(生活状況確認、食事状況確認)

12:00 昼食(配膳・下膳)

13:00 住民の対応(避難所責任者経由で処方依頼。本日午前巡回診療のPWJ医師に電話相談)

15:30 ラジオ体操、換気

16:00 発熱者対応(バイタル測定、症状確認、COVID19抗原チェック依頼) →Ag陰性

17:00 珠洲市保健医療福祉調整本部 zoom meeting

18:00 夕食(配膳、下膳)

19:00 大谷小中学校本部関係者 meeting、換気

20:00 健康観察、避難所運営者や避難者とのコミュニケーション

21:00 消灯、適宜対応

22:00 記録

6. 支援活動と課題

【被災者への生活支援と健康支援】

- 2月6日に義歯不良に対して JDAT に義歯調整していただいた方。本日から常食に変更して摂取できている。そのため、食事はそのままの形態で問題ないとする。
- 衣服が毎日同じように見え、部屋の周りに食べかすが落ちており、生活状況を確認した。家に帰る事ができるので、衣服も変えており、銭湯での入浴もできているという事であった。食べかすについては、JSDN 看護師が掃除機で清掃した。
- 心不全の既往があり、下肢浮腫がある方（以下 A 氏）
 - PWJ 診察前の朝に、JSDN 看護師が症状を確認した。浮腫は靴下の圧痕が残る程度。腓腹筋の緊満や疼痛はなし。
 - 前回派遣の JSDN 看護師の根気強い説得を受けて、自分自身で弾性ストッキングの着脱を始めたと話す。皮膚観察するが、皮膚トラブルなし。
 - 1月31日に60日分薬の処方あり、現在も残薬はある（2月7日現在：残45日分、8回分少ない）。そのため、JSDN チーム1班につき1回残数確認を行い、内服できているか確認していく必要がある。
 - 入浴について、「自衛隊のシャワーに入っている。前はいつか忘れた。」と前回の入浴日は不明。1週間に1回風呂に入っていると話す。自衛隊風呂は火・木・土であり、次回2月8日に自衛隊の風呂を利用することを勧めるが、受け入れが難しい。避難所内の親戚の方と話し合い、入浴前に清潔な着替えの服等が準備できていれば、本人の入浴受け入れがしやすいのではないか、ということがわかったので、明日そのように関わっていく。
 - これまで生活支援については、避難所内の親戚の方が、洗濯や受診行動の促しを行なってくれていた。しかし、親戚の方も近々避難所を出る予定であり、今後、清潔面や受診、服薬についてのサポートは必要と考える。
- 本日 PWJ (Peace Winds Japan) の巡回診療あり（医師1名、看護師1名）。4名の診察に同席した。
 - 避難者の方。以前、PWJ で咳止めを出してもらったが、処方が切れるため受診希望。発熱なし。咳嗽のみ。PWJ 対応は診察と処方。
 - 避難者の方。市販の風邪薬を持っていたがなくなるので処方希望。救護班の市販薬の中にも在庫がなく、PWJ に相談。PWJ 対応は診察、処方。しかし、市販薬に配合されている成分と同様の薬剤の持参がなく、新たに別の市販薬が処方された。
 - 小学校の給食の職員。別の避難所にいたが、今は自宅（名々谷地区）に帰っている。10日前くらいに、夫がインフルエンザになったため自宅へ帰る。本人もコロナとインフルエンザの検査を実施し、陰性であった。本日は、咽頭違和感で診察希望。PWJ 対応は診察と処方（図1）。
 - 心不全の既往があり、下肢浮腫のある避難者（A 氏）。内服治療、弾性ストッキング装着中。PWJ 対応：診察では状態の悪化はないという診断で、体重測定を行い、1週間後に再受診し、体重経過を確認する方向となった。
- 13:00 に学校職員から内服薬が本日終了予定と JSDN 看護師に相談があった。
 - かかりつけ医院は現在も休診中であるため、避難所リーダーを經由し、珠洲市総合病院へ処方依頼。2月8日に処方薬が届く予定。
 - 頭痛と胃部不快感の訴えがあり、休憩中は学校内の部屋で横になっており、疲労が強いように

見える。症状について、「私がんばらないといけないのに」、受診などについても、「大事にしたいくない」と言われ、傾聴する。処方相談という形で、本日午前巡回診療していたPWJ医師に電話相談にて相談した。PWJ医師より、症状等確認しながら経過観察し、必要時は珠洲市総合病院等に受診する事を勧められる。次回は2月14日(水)10時にPWJ巡回時に診察予定。その際、経過報告を行う。

- 上記の際にバイタルサイン測定実施し発熱がわかる。BT:37.6°C Bp:131/79mmHg PR:80回/分 RR:20回/分 体熱感軽度あり。喀痰・咳嗽・鼻汁・悪寒・シバリングなし。コロナ抗原検査を迅速キットで実施した結果陰性。体温腋窩で再検し36.9°C。本日は休養をとっていただき、明日再度症状確認、バイタルサイン測定させていただく。それまでは、マスク着用、手指消毒等を徹底いただく。
- 洗濯は本日も2回稼働。1回に18Lポリタンクのほとんどを使用する。使用時は避難所リーダーに直接声をかけ使用している。

【課題】

- 珠洲市内の避難所ではコロナやインフルエンザの感染が続いており、避難所に入出りする住民や支援関係者への体調確認が必要だが、住民の中には朝早く出勤したり、週末に家族でお風呂や洗濯で富山や金沢に行くことがあり、健康状態の把握が難しい。
- 避難所内避難計画について(想定は地震と津波。役割、避難経路、救護班の避難時持ち出し物品の内容)は避難所運営メンバーを交えて検討が必要である。

【活動の様子】

図1. Peace Winds Japan 診察立会



(掲載にあたり、撮影の許可は得ています)